

令和4年度 学校教育計画

教育理念	一 真理の探究 一 自他の敬愛 一 責任の完遂
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸長させる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。
中期目標	(1) ライフプランを考え、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究
今年度の重点目標	① 適切な科目選択や系統的・体系的キャリア教育の展開、学力向上による進路実現を目指す取り組み ② 新学習指導要領の施行に伴い、多面的な学習評価とICTの活用による知識の定着と実践的思考力の涵養、探究的な活動の支援 ③ 地域・保護者との連携、中学校との情報交流による開かれた学校づくり ④ コロナ禍の生徒に寄り添い、いじめや体罰のない安心安全な環境を確保
総合評価	・新学習指導要領にそった多面的な学習評価への移行はスムーズに行えた。また、新たな科目選択についての助言・支援も丁寧に行い、生徒のキャリア形成の第一歩に資することができた。探究的な活動の支援に今まで以上にICTが活用され、実践的思考力の涵養につなげられた。 ・地域・保護者との連携において、コロナ禍により地域の方対象の授業公開は行えず、文化祭に招くこともできなかったが、学校の様子をSNSで発信するなど新たな試みも始まった。また、中学校との情報交流の機会を増やすなど開かれた学校づくりに向けた取り組みは着々と進んでいる。 ・生徒にとって学校が安心安全な居場所であり続けるために、細やかな対応と外部機関との連携をさらに進めていきたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 生徒が安心して学校生活を送り、確かな学力と豊かな人間性を育めるよう他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③	ア 新型コロナウイルスの感染状況に対応した月暦・日課等の作成と周知徹底 イ 授業研究・授業公開の実施、サポート ウ 各種研修の推進、サポート	A	・本格的に始まった観点別評価について、各教科やICT図書視聴覚部と連携して行った。多面的な学習評価によって、生徒の意欲や取り組みの様子が浮き彫りになった。	・ウィズコロナの時代に対応した授業の在り方を、ICT機器の活用に限らず多角的に模索していく。 ・生徒たちが安心して学び、将来に向けて考えられる環境を整える。 ・学びと学習評価の在り方を、各部署と連携をしてよりよいものにしていく。
	2 本校の教育内容の充実を図り、その成果を積極的に保護者、地域、中学生に発信し、地域に理解され信頼される学校作りを目指す。	②③	エ 公開授業および体験授業の充実 オ 中学生向けの出前授業・進路講話を実施し本校に対する関心を高める。 カ 中学校訪問等を通じた、本校の特色や入学者選抜の中学校や中学生への周知	A	・新型コロナウイルスの感染状況に左右された面はあるが、積極的に学校概要説明や授業公開の機会を設けて本校の特色を発信できた。 ・本年度から新たに中学校進路指導担当者向け学校説明会を実施し、本校生徒の落ち着いた様子や総合学科の魅力が中学校の先生に直接知ってもらえた。	・本校の魅力を発信し続ける取り組みを継続していきたい。 ・参加者アンケートの要望をできるだけ取り入れ、総合学科の学びの周知に努めたい。
	3 PTA活動を通して学校と家庭、地域社会を結びつけ、生徒が安心して活動し、豊かな経験を積める環境を調える。	③	キ 学校・学年・学級のPTA企画による、学校教育・家庭教育における情報共有と豊かな学びの機会の充実	B	・PTA総会は新型コロナウイルス感染状況の悪化で、中止を余儀なくされたが、通信機器を駆使して家庭との連絡、意思の疎通ができた。	・生徒たちの安心安全の基盤であり、学びの場である家庭・学校という場を、開かれた議論のなかで向上させていきたい。
	4 PTA活動参加拡大に向けた広報活動の充実を図る。	③	ク 研修会や各種行事を通じて親睦を深めることで生徒を取り巻く様々な変化に臨機応変に対応できる態勢作り ケ PTA会報などの内容と広報の充実	A	・秋に親睦旅行を企画、実行し、保護者の方と学校の将来や教育について語るよい機会となった。	・新型コロナウイルスの感染状況に臨機応変に対応できるような企画に力を入れたい。
進路指導	1 各部署とのつながりを意識し、体系的・組織的に進路指導を行う体制を整えるとともに、職員間での情報共有を図る。	①②	ア 生徒の進路に対する意識の向上と、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを研究、実践する。 イ 引き続き共通テストなど新しい入試制度の情報を収集し、職員間での共有化を図る。 ウ スタディーサポートや模擬試験など学びの基礎診断ツールの効果的な活用を研究、実践する。 エ Google ClassroomやロイロノートなどICTを利用した学習支援の研究や活用に取り組む。	A	・スタサポや模試では、事後の対策を効果的に行うことができた。 ・コロナ禍で培われたICTを利用した学習支援の技術が、通常の授業の中でも積極的に活かされ成果をあげた。 ・新しい入試制度について生徒に的確な情報を提供できた。	・引き続き、総合学科の特色を活かし、総合型選抜で力を発揮できる生徒の育成を進める。 ・観点別評価について、生徒・保護者へ一層の情報提供を行う必要がある。 ・今後も高大接続改革や新しい入試制度の動きを全職員で共有し対応していく。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
進路指導	2 自らの目標と進路の実現に向けて、主体的に行動できる生徒の育成を図る。様々な検定試験の受検を奨励する。	①②	オ 桔梗塾などの補習授業や勉強クラブ、各種検定に意欲的に取り組むよう促す。 カ 進路ガイダンス、進路相談会、オープンキャンパス、企業見学会への積極的参加を促す。 キ 「進路通信」「志学の時間」を通して、進路に関する情報を提供するするとともに進路意識の啓発に努める。 ク 一人一人の生徒の状況に応じた進路が実現できるよう支援する。	A	・生徒は、補習や勉強クラブ、各種検定に積極的に取り組んだ。また、進学を希望する多くの3年生は最後まで模試に挑戦してくれた。 ・対面の進路行事が増え、多くの生徒が積極的に参加した。 ・小論文指導、面接指導は全職員にご協力をいただき、生徒の進路実現を支援できた。 ・大学入学共通テストでは、先生方に熱心にご指導いただき、5科目で前年の平均点を上回った。	・「進路通信」などを活用して、進路相談会やオープンキャンパス、各種進路行事や事業所見学会などに、生徒が積極的に参加できるように工夫する。 ・模試や検定などに、具体的な目標を持って継続的な学習ができるように指導を工夫する。 ・早い段階から入試のしくみを理解させるとともに、一般選抜で3月の最後まで受験勉強に取り組む生徒を増やしていく努力が必要である。 ・進学をめざす学習集団に、意欲や刺激を与えられる学習指導の年間計画表を作成する。
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ・基本的生活習慣の確立 ・服装・頭髪等の身だしなみを整える ・貴重品の管理、携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ・交通事故の未然防止	②③④	ア 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 ウ 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	A	・生徒動向を職員間で共有し、生徒指導や生徒支援に努めることができた。 ・校内巡視を実施した。教室に入れない生徒の対応や部室管理の面から、教室・部室の巡視は今後も必要であると考えている。	・職員間での情報共有、保護者との連絡を密にし、多くの目で見守る生徒指導・生徒支援に努める。 ・講演会や、機を捉えた注意喚起を行い、規範意識や自己管理能力を育てる。
	2 いじめを出さない学校づくり ・いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ・常に開かれた相談態勢を整える	③④	エ 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラー等の有効活用などで生徒や保護者を支援する。 オ HR 担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	B	・ハイパーQUに加えアセスを実施し、いじめの防止に努めた。 ・専門機関とも連携し対応することができた。	・定期的な面談に加え、ハイパーQ U、アンケート、アセス等を活用し、いじめ防止に取り組む。 ・LHRを活用し、いじめ防止の取り組みを行う。 ・支援の必要な生徒には、相談室を窓口にご部署・専門機関と連携をとり対応する。
キャリア教育推進	1 総合学科の特徴を活かして社会の変化に対応したキャリア教育を行う。	①②③④	ア 生徒が科目選択を通じて自己の価値観や可能性を広げられる機会とし、また新教育課程に則したシステムや指導方法などを見直し工夫するができたか。 イ 生徒に社会の変化を踏まえながら自分の将来や社会との関わり、貢献について考えさせることができたか。	A	新しい科目選択の方式に伴い、科目配置の工夫などを行った。各教科から指導・助言を受けやすくなった。 ポートフォリオなどの実施により振り返りを通じて自己への理解を深め、成長を可視化している。	科目選択については、その意義や仕組みについてさらに時間を掛けて生徒へ伝えていく。また、教員向けの研修も行い、職員全体で科目選択への共通理解を構築する。選択帯の科目配置については今後さらに検討、改良をする。
	2 キャリア教育に係わる「探究的な学び」を計画・実行する。	①②③	ウ 探究的な学びを通して自己や他者への理解を深めるとともに、自ら課題を解決しようとする姿勢を養うことができたか。 エ 各学年の学習計画および「志学の時間」や「ポートフォリオ」の作成を通じて探究的に学びを深めたり、キャリア観を養うことができたか。	A	各学年において社会との繋がりを意識できるような探究学習を実施することができた。講演会など目的をより明確にし、人選に工夫を施したい。	講演会については早くから計画的に準備を進め、より専門性の高い講演を聴くことができるように工夫をする。フィールドワークや発表など学習の各段階において、コロナの状況を見定めながらより積極的に実施した。
	3 地域との連携を深め、総合学科高校としての本校の魅力を高める。	①②③④	オ 「シオジリ学」を3年間継続的に学習できるプログラムとし、地域資源を積極的に活用した学習を実践できたか。 カ 生徒の活動や学習の成果を広く発信することができたか。	A	地域を題材にしたシオジリ学は3年目を迎え地域資源を活用した学習になっている。また、小中学校との情報交換なども実施できた。	シオジリ学については内容を見直しながら実施していきたい。市内小中学校との連携にも積極的に関わりたい。
生徒会	1 生徒会活動に参加することにより、豊かな人間性を育て、相互理解を深める。	①②④	ア 生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を図る。 イ 目標の達成を目指し、継続的な努力をする事で、高校生活に対する達成感を持たせる。	A	生徒会の活動を通し委員会、部活動など生徒相互のコミュニケーションを深めることができた。また、全校に活動を呼びかけたり、ロイノートなどを活用し、広報活動が充実したものができた。	コロナ禍での行事の企画・運営を生徒の成長の良い機会ととらえ、前向きに活動できるよう支援する。
	2 生徒自らが自覚と責任を持って活動することにより、主体性をはぐくむ。	①②④	ウ 明確な目的を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。 エ 生徒会活動を通し、ひとりひとりの役割を理解することで、互いに協力する関係をつくる。	A	生徒会の行事の企画や運営を通して、全員で活動することの重要性を理解できた。ひとりひとりがリーダーとなり全校で行う行事を開催することができた。	見直しを持たせ、早い段階から計画・立案を促す。コロナの影響で行事変更等が予想されるため様々なパターンでの開催を準備できるように生徒の自主性を大切にしながら支援する。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
ICT 図書 視聴覚	1 ICTを活用して学校教育の充実を図る。	②③	ア ICTを効果的に使い、生徒の主体的・協働的な学びを促す。 イ 授業等におけるICTを活用した指導事例の情報共有を行う。 ウ 学校ウェブサイトを活用して学校の情報を発信する。	A	・授業や学校行事でタブレットやロイロノート等の活用を推進することができた。 ・インスタグラム等を通じて学校の魅力を外部へ伝えることができた。	・紙で行うのかICTを活用するのか慎重に検討していきながら、タブレットの活用を今後も進めていきたい。 ・各教科や他校でのICT活用の実践例を全体で情報共有していきたい。
	2 ICT環境の整備を行い、校務における情報化を促進する。	②	エ 生徒や教職員がICTを利用できる環境を段階的に構築する。 オ ICT活用による資料等の電子化を推進して、業務を効率化する。	A	探究活動や生徒への連絡等でICTを利用しやすい環境を整えることができた。	他の部署と連携しながらアプリや周辺機器の利活用についてさらに充実させていきたい。
	3 図書館運営の充実を図る。	①②	カ 図書館利用の活性化を図る。 キ 生徒の読書活動の向上を図る。 ク 図書委員会による積極的な広報活動を行う。 ケ 生徒の探究活動に沿った蔵書の拡充を図る。	A	図書館での探究活動中、困っている生徒に対して支援することができた。ききょう文庫の設置を行った。カーリルとともに活用していきたい。	引き続き探求的な学びを深める図書館としての機能を果たせるよう努力したい。図書委員会を中心とした朝読書の活用の充実を図り、全校生徒への読書への関心を高める。
	4 視聴覚教育の充実を図る。	②④	コ 視聴覚教室・視聴覚機材の教育活動への利用拡大を図る。 サ 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 シ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。	A	3年ぶりに芸術鑑賞を行うことができた。コロナ対応のための演目ではあったが、生徒には好評であった。	コロナ対応で、本校体育館で行ったため、鑑賞環境の苦情があった。来年度はホールで行う。
保健 厚生	1 校舎内外の美化・清掃の強化および感染症対策の徹底	②	ア ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化 イ 清掃および感染予防対策の継続	A	ゴミステーション当番、大掃除連絡等、清掃美化委員全員が関わる体制を継続・構築できた。	リサイクル品の分別や洗浄の呼びかけ等、各委員が更にクラスへ伝達できるようにしたい。
	2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	①②③④	ウ 保健委員会と職員の協力体制を強化する。 エ 外部講師の精選と教育方法の研究をする。	A	イ、ウともに例年と異なる実施形態となったが、職員の協力があり実施できた。	コロナの影響があるかもしれない
	3 職員厚生の充実	②④	オ ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	コロナ禍の中、校内でできる最大限の研修を実施し、親睦をはかることができた。	来年度もスポーツをベースに、研修を実施したい。実施可能な親睦会を検討したい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
1 学年	1 基本的な生活習慣の確立	①②③	ア 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。 イ 家庭との連絡が密にとれたか。	A	全体的に落ち着いた生活を繰ることができたが、不安定な生徒や、学習面・生活面で今後心配な生徒もいる。	保護者との連絡と教員間の情報共有を密にし、指導していきたい。
	2	①②③	ウ 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	家庭学習習慣定着への働きかけを行い、テストや模試の振り返りなど前向きに学習に取り組んでいる生徒が多いが、まだこれからの生徒もいる。	2年時の選択科目を意識させるなど、様々な場面で学習意欲を高めることができるような指導をしたい。
	3 相互理解を深める	②③④	オ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	B	コミュニケーションの苦手な生徒が増えている中、グループ学習やHR活動などを通して相互理解を深めていこうとしている。	生徒の特性を考慮し、様々な学習活動を通して一人一人が安心して活躍できる場を与えていきたい。
2 学年	1 進路意識の高揚、集団形成と支援体制を整える	①②③④	ア 学年全体、進路希望別、それぞれの集団での学習活動ができたか。 イ 進路指導部とキャリア推進部の連携によるCPの充実が図れたか。 ウ 個別に学力・生活状況に応じた相談・助言ができたか。	A	コロナ感染回避のため、オープンキャンパスや就業体験など中止や延期となった企画もあるが、おおむね計画通り進められた。	中止の代替に、進路相談会やWEB上の説明会を利用して学習を深めていければと考える。
	2 研修旅行の充実	②③④	エ 平和学習・防災学習の充実が図れたか。 オ 訪問する各地の地理・歴史・文化について理解を深められたか。 カ 互いに協力し自らの責任を果たし、有意義な研修旅行になるように指導できたか。	A	実施できるか不安もあったが、講演会、映画鑑賞などで事前学習を行い、実際に現地での学習で深めることができ、充実した研修となった。	委員以外の生徒が計画立案する部分が少なかったため、多くの生徒が準備に係われるように計画をできればと思う。また、不測の事態の対応マニュアルを充実させたい。
	3 相互理解を深める	③④	キ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。 ク 家庭との連絡が密にとれたか。	A	全般的に落ち着いた生活を送ることができたが、不安定な生徒、今後心配な生徒もいる。	引き続き、保護者との連絡と教員間の情報共有を密にし、学校全体として指導していききたい。
3 学年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③	ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチを図る。 イ 個性や適性などに応じた進路指導をする。 ウ 多様な入試制度に対応し、受験準備など計画的に活動できるように支援する。	A	総合型からチャレンジする生徒が多いため早目に受験体制に入ることができた。計画的に受験をして結果を残す生徒が多かった。	本校の全職員による小論文・面接の指導は充実しているため、その段階までに学年としてどれだけ指導できるかは常に検討が必要。
	2 コミュニケーション能力の向上	③④	エ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスする。 オ 家庭との連絡を密にとる。 カ 社会の一員となるためのコミュニケーション能力を育成する。	A	行事を通してクラス・学年の団結が深まった。また、進路活動やCD、総研での発表を通じてお互いの考えを共有できた。	進路決定後も周りへの配慮ができる姿勢を大切にしていきたい。
	3 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	キ 学校・生徒会行事において責任ある活動ができるように支援する。 ク 規範意識を向上させ、社会性を身につけさせる。	A	コロナ禍以前に近い形でほとんどの行事を行い、後輩につながる積極的な活動ができた。	受験指導とともに社会人としての常識や礼節を学ばせたい。